

2019 人文社会科学部後援会事業報告書

申請者：添田仁

テーマ：日本近世史ゼミフィールドワーク

事業区分：学生の教育研究活動支援

参加者：10名

概要：授業のなかで、文献や歴史資料を用いて調べた史跡を訪問し、フィールドワークの方法を学びつつ、対象それ自体と歴史的な意義について理解を深める取り組みを行う。とくに、水戸藩とのかかわりの深い伊勢神宮および松阪（本居宣長記念館、松浦武四郎記念館ほか）を訪れ、近世の国学と蝦夷地開拓事業の歴史を学ぶとともに、歴史遺産・史跡の活用実態について実地で学ぶことができた。

日程：2019年9月18日（水）～20日（金）

内容：

9月18日（火）

13時、松阪駅に集合。ボランティアガイドから街路の解説を聞きながら松阪城下を散策し、本居宣長記念館に移動。本居国学が誕生した背景や宣長の個性について学んだ。その後、松阪商人ゆかりの地として、三井家の旧宅跡地や紙問屋の小津清左衛門家を訪れ、歴史を活かしたまちづくりと歴史的建造物の保存と活用の方法について学んだ。

9月19日（木）

8時に出発して伊勢市駅に移動。伊勢神宮の外宮でボランティアガイドの解説を受け、外宮の構造的な特質や神話の世界との接点について学んだ。その後、伊勢参りの参宮者らが多く通ったことで知られる古市遊廓の跡地を訪れ、伊勢市立伊勢古市参宮街道資料館において、参宮者が育んだ文化の一端にふれた。午後からは、内宮でボランティアガイドの解説を受け、内宮と外宮との関係性や伝統行事の詳細について学んだ。

9月20日（金）

9時に出発して、蝦夷地の開拓事業の基礎を作ったとされる松浦武四郎ゆかりの地を巡った。松浦武四郎記念館では、彼と学問的な交流があった水戸藩の会沢正志斎らとの書状の内容を確認することができ、茨城県下の歴史を広域かつ多角的に評価しうる視点を導くことができた。

学生一同、後援会の皆様のご支援に深く感謝いたします。



